６　問題解決的な学習のステップ

(1) はじめに

中学校３年生公民的分野，地方自治の単元における授業の一場面です。子どもが，グループごとに自分たちの住んでいる市の将来像を考え，よりよい市にしていくための提案をし，その吟味を行っている場面です。

Ｓ１：僕たちグループのスローガンは，「市民が安心して暮らせる街づくり」です。
市には，46台のＡＥＤが設置されていて，さらに，24時間営業のコンビニエンスストアへのＡＥＤ設置を進めています。しかし，コンビニエンスストアがない地域もあります。だから，市内の至る所を通っているバスに設置することで，より一層，市民が安心して暮らせる市になると思います。

Ｓ２：ＡＥＤの取り扱い方を知っている人は，手を挙げてください。（数人手を挙げる）
このように全員は，分かっていない状況です。いくらＡＥＤが多くなっても，使えなくては意味がありません。いざという時に，私たちが使えるように，小･中学生へAEDの取り扱いを説明する講習会を行うようにすることを併せて提案します。

Ｓ３：講習会は，どんな時間を使って，どのくらいのペースで行うのですか。

Ｓ２：今，学校では，薬学講座や防災訓練を行っています。そんな機会を使って行ったら良いと考えています。

Ｓ４：市でも防災訓練をやっています。こうした機会を使って講習会を行えば，小・中学生だけでなくて多くの人が使えるようになります。

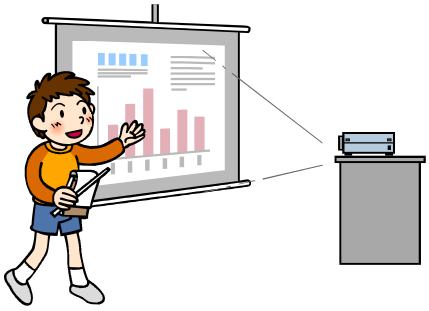
全体：おお。確かにそうだ。

＜子どもの提案例＞

『保健・医療・福祉』
・ＡＥＤの設置と講習会
ＡＥＤをバスに設置して台数を増やし，講習会を開き小・中学生も使えるようにする。

『食』
・給食で地産地消
給食に市でとれた食材を使うことで，市の農作物のよさを知ってもらう。

『自然・環境』
・エコショップの設置
ペットボトル，牛乳パック等のリサイクルできるものだけでなく，使わなくなった家具や日用品を回収し，再利用する。



子どもの提案には，非現実的なものはありません。また，自分たちも市民の一員として参画することを視野に入れて発言していることが分かります。さらに，仲間の提案に対して，単にそれを否定するのではなく，自分が追究してきた市の現状や様々な人々の思いを踏まえて，よりよい提案にしていくための建設的な意見を発言しており，それに対して仲間が賛同しています。

このような子どもの主体的な学びは，まさに社会科で目指したい授業の姿と言えます。しかし，市の行政に対して一方的に自分が不満に思っていることを発言したり，やって欲しいことを提案したりするだけの授業では，このような子どもの姿は見られないでしょう。

この授業が問題解決的な学習になっており，この授業の背景に授業者の様々な手立てや関わりがあるからこそ，子どもが主体的に学ぶ姿が見られるのです。それでは，子どもが主体的に学ぶ，問題解決的な学習にしていくためには，どうしたらいいのでしょう。

ここでは，この授業を事例にして，単元を通した問題解決的な学習のステップの例を示したいと思います。

(2) 授業者が学びの見通しを持つ（学習目標の明確化）

問題解決的な学習に取り組む際，どのような場面で，どのようにして，どのような力を子どもたちに付けるのか，単元や授業における目標を明確にして学びを見通しておくことが大切です。目標が不明確であると，作業や体験などの活動そのものに，子どもの興味・関心が集中し，教科の目標や授業のねらいから外れてしまうこともあるので，留意したいところです。

(3) 興味・関心を高める導入と切実な問いの共有（導入と問題の発見）

単元の導入において，授業者は，身近な社会問題を扱いました。

授業者が，テレビでのニュース映像を資料として示すことで，「市民を困らせたサルの捕獲は誰が行っていたのだろう。」「市は，なぜ，サルの捕獲に懸賞金を出したのだろう。」と子どもに疑問が生まれます。

子どもは，新聞記事の資料等から，市が自分たちの生活を守るために行っていたことを知るとともに，どのような仕組みの中で，どのような取組を行っているのかと興味・関心を高めます。

そして，「市民は，市に対してどう思っているのだろう。」という疑問を基に，市に対する市民の意識調査と子どもの意識調査を比較することで，人々の思いに着目させ，世代によって市に対する思いが違うことに気付くとともに，「市民の思いと市の取組が整合しているのだろうか。」と疑問が深まります。

また，自分たちが住んでいる市には市民提案の制度があること，静岡市では，中学生の提案で，路上喫煙禁止条例が制定されたことを学びます。

こうした学習を通して，市に対する人々の思いや願いが市の具体的な取組と整合しているかという疑問と，自分たちの提案が実現されるかもしれないという期待がつながり，市の具体的な取組と市民の思いや願いを調べ，「市の将来像を考え，よりよい市にしていくための提案をしよう。」という単元を貫く問いが共有されていったのです。

問題解決的な学習における追究のエネルギーは，問いが子どもにとって切実なものであるかで大きく変わります。上に述べた単元を貫く問いだけでなく，１時間の授業における問いにおいても，子どもたちの様々な疑問を焦点化して切実感のある共有した問いとするためには，資料の提示や発問など，授業者の関わりが重要です。また，問題を解決するための資料収集等，子どもが追究する見通しが持てる環境を設定したいものです。

単元名　「市の将来像を考え提案しよう」

	学　習　活　動
①切実な問いの共有	・サルの捕獲に，なぜ市がお金を出したのだろう ・市は市民のために，どのような仕組みの中で取り組んでいるのだろう ・自分たちと市民の市に対する意識調査を比較しよう ・市の将来像について考え，よりよい市にしていくための提案をしよう
②追究の過程	・市の取組を調べてみよう ・市民は，市の政策を知っているのだろうか，満足しているのだろうか，聞き取り調査を行おう
	・市の取組や市民への聞き取り調査から分かったことをまとめ，市への提案を考えよう ・市役所の方にアドバイスをいただこう ・市の将来像についての提案を考えよう
③問いの解	・各グループの提案を吟味しよう ・学級の提案をまとめ，市に伝えよう ・この学習を通して考えたことや市民の一人として自分にできることをまとめよう

(4) 一人一人の個性が生きる充実した追究の過程（調査活動・調査結果の再構成）

子どもが問いを追究する方法は多様にあります。

前述した実践では，市の広報やインターネットのホームページ活用の他，アンケートによる調査やゲストティーチャーを招いての聞き取り調査が行われています。社会科での追究方法としては，この他にも，文献，地図，統計資料，年表等を活用することが考えられるでしょう。

子どもが問いを追究する際に授業者は，次の点に留意し，一人一人の個性が生きる学びとすることが大切です。

	子どもの追究	授業者による学びの見通しと働き掛け
追究の計画	**追究の見通しを持つ** 問いを解決するために，何をどのように追究するか計画を立てる ・調べる目的（何のために調べるか） ・調べる内容（何について調べるか） ・調べる方法 （何を使ってどのように調べるか）	何を使ってどのくらい調べることが可能か，追究に活用できる資料と，子どもの資料を活用する力を把握し，発達の段階に応じて指導する ・追究に活用できる資料 （図書館の文献，インターネット，見学先，ゲストティーチャー等） ・資料を活用する力 （資料を読み取る力，必要な資料を収集する力等）
追究	**一人一人が個性を生かした追究をする** 追究の計画に基づいて，子ども一人一人が，様々な方法で追究し，資料を収集する	予想させるなどして，自分なりの視点を持たせるとともに，発達の段階に応じて，様々な視点から多面的・多角的に追究できるように指導する
追究の検証	**収集した資料を吟味する** ・集めた資料が，問いを解決して結論に結び付けられるものであるか検証する ・資料の信頼性や作成年を確認する ・検証する中で，資料を加える必要性を考える	子どもの資料を活用する力を把握し，発達の段階に応じて指導する ・資料を活用する力 （必要な資料を吟味する力，資料を整理したり再構成したりする力）
追究のまとめ	**一人一人が自分の言葉でまとめをする** 資料から考察するなどして，追究結果を自分なりの言葉でまとめる	追究の目的などを再確認するとともに，資料を比較・関連付けて考察し，再構成して自分なりの言葉でまとめられるよう指導する

※どの場面においても，子どもの表れ，つまずき等を予想し，付けたい力に向かう適切な支援を構想し，実践する

(5) 子ども同士の学び合いによる問いの解決（問題の解決）

この単元において子どもは，グループごとに「よりよい市にしていくための提案」をスローガンとしてまとめ，その提案のキーワードをホワイトボードに貼りながら，聞き取り調査等によって分かった事実を根拠として示して全体に説明しました。

授業者は，グループの提案を，学級全体のものとして市へ提案することを伝え，学級全体で吟味する必要性を大切にした上で，提案の妥当性を様々な市民の立場や行政の立場等から吟味していきました。

子どもが調べたり考えたりして追究した結果を，自分の言葉で伝え合い，子ども同士の学び合う場とすることで，問いの解決へ，授業者の目標へと向かうことになります。

その際，次のことに留意し，一人一人の学びが深まる学び合いにすることが大切です。

	子ども同士の学び合い	授業者による学びの見通しと働き掛け
伝え合う	**調べたことや考えたことを表現し，伝え合う** ・資料等を活用し，根拠を示すなどして自分の調べたことや考えたことを分かりやすく表現する ・仲間と自分の調べたことや考えたことを，比較したり関連付けたりして聞く	・子どもの表現する力を把握し，発達の段階に応じて，自分なりに資料を活用して説明等できるように指導する ・仲間と自分の調べたことや考えたことを，比較したり関連付けたりして聞けるよう，発達の段階に応じて指導する
学びを深める	**自分の考えや学級の考えを発展させる** 問題を解決するために，それぞれが調べたことや考えたことの妥当性や信頼性を吟味したり，異なる視点から検討したりして，自分の考えや学級の考えを発展させる 	一人一人の調べたことや考えたことを把握し，子ども同士の学び合いによる学びの深まりを構想し実践する ・観察やノートの記述等から，子ども一人一人の調べたことや考えたことを把握する ・形態の工夫によって学びの深まりを構想し，実践する （ペア，グループ，一斉等） ・発表方法や指名（相互指名，授業者による指名等）の工夫によって学びの深まりを構想し，実践する

(6) 子どもが学びを実感し，授業者のねらいに達する（学習目標の達成）

「市の将来像を考え提案しよう」の単元は，地方自治の仕組みを理解するとともに，地域社会の一員としての自覚を持ち，地域に積極的に関わろうとする態度を育むという授業者のねらいのもとに構想され実践されています。

「自然・環境」「保健・医療・福祉」「食」というテーマに沿って追究していった子どもは，仲間と意見を交え，調べた結果から提案にまとめ，その妥当性を吟味しました。その中で子どもは，市が自分たちのためにどのような取組をし，市民がどのような思いを持っているかに気付いていきました。そして，単元の学びを振り返ることで，市民の一人としての自覚を深め，自分たちが市民の一人としてできることがあることを知り，共によりよい地域をつくっていこうとする思いを育んでいったのです。

問題解決的な学習は，子どもの主体的な学びで展開されていきますが，その授業や単元で子どもが付けたい力を付けていなければ，子どもの学びを保障できません。また，自分に力が付いたことを子ども自身が実感することが大切であり，それが主体的な学びの姿勢を身に付けることにもつながります。

したがって，授業者は，次のことに留意して単元や授業の振り返りを工夫し，子どもが学びの実感を積み重ねられるようにするとともに，授業によって付けたい力が付いたかを，子どもの表れによって振り返り，指導と評価の一体化を実践していきたいものです。

<table>
<tr><th></th><th>子どもが学びを実感する</th><th>授業者による学びの見通しと働き掛け</th></tr>
<tr><td rowspan="2">振り返り</td><td colspan="2">学びを振り返り，自分の学びを実感する</td></tr>
<tr><td>・学びを振り返り，改めて自分の調べたことや考えたことをまとめたり再構成したりして，自分の言葉等で表現する
・学びを振り返ることで，自分の成長，仲間との学び合いを実感する</td><td>・構造的な板書等によって，学びを振り返り，比較・関連付け・再構成して自分の言葉等で表現させるなどして自分の考えを深めることができるようにする
・自分の成長，仲間や学び合いのよさを実感できるよう，ノートやワークシート等に学びの足跡を蓄積させておくなどの工夫をする
・付けたい力に沿った評価規準を作成し子どもの表れから自分の授業を振り返り，指導に生かす</td></tr>
</table>